

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1 AB	社会福祉★	竹中 直	
サブタイトル	社会福祉の基礎的知識を身につける	単 位 数	2
授業形態	講義	出席要件	4 / 5 以上
開講時期	後期		
到 達 目 標			
<p>1. 保育学生として身につけなければならない社会福祉全般に関わる基礎的知識の獲得。 「貧困」「高齢者福祉」、「障害児・者福祉」、「地域福祉」、「相談援助」等の領域について学ぶ。</p> <p>2. 「社会福祉とは何か」という問いに答えられる自分なりの社会福祉観の形成。 社会福祉の定義、対象、歴史、組織等から社会福祉の基本的視座を身につける。あわせて社会福祉の動向と課題について考える力を養う。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>本科目は、とくに保育士資格取得に関する基本的教科のひとつとして「専門職に関する知識・技能及び表現力を身につけている」を目指す。 保育士資格に関連する法的体系、保育士資格取得後に勤務可能な保育所、各種児童福祉施設の実態を学ぶ。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>講義形式の授業形態を基本とする。授業においては理解度を確認するための問いかけをしている。また主体的な参加を行うため、アクティブ・ラーニングの手法をおり込んだ授業方法を取り入れている。グループワークの時間を作りディスカッションを行うことで、学生同士が学びを深める機会を提供するようにしている。授業の最後はグーグルクラスルームを使って振り返りを行い授業内容の理解を深め質問や疑問に答えるようにしている。 場合によっては遠隔授業をおこなうこともある。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト：『社会福祉（第3版）』李木明德 北大路書房 2023年 教 材：新聞記事やデータ等の配布資料、ビデオ等視聴覚教材を活用する。 参考図書：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年 授業内で、適宜参考文献を紹介する。</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
<p>1. 授業内で数回課題を設定し、レポート提出を求める 2. 受講記録としてのノート提出 3. 授業への取り組み姿勢・貢献度 4. 定期試験</p>		<p>定期試験 60% レポート 30% 授業への取り組み 10%</p>	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>日常的に、社会福祉関連の情報に留意すること。 定期試験は持ち込み不可で論述式の問題とする。</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	<ガイダンス> 社会福祉・社会保障・社会保険	社会福祉の制度の概要 についての理解
2回	公的扶助 生活保護制度の概要・動向を知る	福祉の原点・貧困の本質 についての理解
3回	戦後日本の社会福祉の歴史を振り返る	日本の社会福祉の歴史 についての理解
4回	社会的養護を支える施設 児童福祉施設を知る	児童福祉施設について の理解
5回	社会福祉の専門資格について	社会福祉の専門資格に ついての理解
6回	社会福祉における相談援助	社会福祉の相談援助に ついての理解
7回	相談援助の理論について	相談援助の理論を理解 する
8回	ケースワーク演習・ロールプレイ	ケースワークを理解す る
9回	利用者の権利擁護に関する制度 成年後見制度	成年後見制度を理解す る
10回	社会福祉の財政について	社会福祉の財政につい て理解する
11回	援助事例に対する事例分析を行う	事例分析のスキルを身 につける
12回	障害者を抱える家族の問題を考える	障害者を抱える家族の 気持ちを考える
13回	諸外国の動向 イギリス・アメリカ・スウェーデン	外国の福祉制度につい ての理解
14回	<まとめ> 授業内容の総括を行う	社会福祉観を養う
試験	定期試験	